

概要 市民と行政とのパートナーシップ～市民参加による環境基本計画の策定～

志木市の環境基本計画は、市民参加を柱とする行政の立場と市民の参加意欲の相互作用から策定された。市民活動が行政を動かし、そのチャンスを生かして環境基本計画の策定まで辿り着いた事例である。

環境基本計画の策定は、環境市民会議（公募による26名の市民）により行い、環境市民会議は1回につき2時間程度で、1年間で計10回（月に1回）開催した。



経緯

- 1972年 ～ 「志木市川をきれいにする運動推進協議会」を結成し、役員約70名、会員は市民という団体。設立当初からロータリークラブや各町内会、婦人会、老人会、PTA、子供会、環境団体、企業、市の支援があった。
- 1985年 「21しき市民会議」（市長の私的諮問機関。21名中11名が公募）スタート。市民の発想を行政に提言する機関として平成13年まで存続。1期2年の任期。
- 1993年 95年まで、年1回「環境フェア」開催（市民実行委員会を組織）。同時に文部省環境教育推進モデル市の指定を受けた。
- 1995年 環境教育リーダー養成講座を経た市民が中心となって、「環境教育推進委員」と「エコシティ志木」を組織。環境教育推進委員は市内の古木調査を推進し貴重な天然記念物「チョウショウインノハタザクラ」を発掘した。エコシティ志木は市民版ローカルアジェンダ作成などの活動を実施。
- 1996年 環境基本計画を市の実施計画に盛り込み、市民参加方式の計画策定を行うことを決める。
1997年 4月、志木市の都市マスタープラン素案を策定する「21市民まちづくり会議」（委員全員公募）が始まる。11月、「環境問題意識に関する意見交換会」（環境基本計画策定市民懇談会）開催。
- 1999年 第10回（最終）会議での意見や提案をもとに志木市環境基本計画を策定。

出典

現地取材

「市民主体の環境政策」（高橋秀行著）

現在の活動内容

「志木市川と街をきれいにする運動推進協議会」

県内最古の環境団体。グラウンドワーク的な地域環境改善活動を実施。役員 70 名。志木市民全員が会員であるとしている。町内会、婦人会、老人会、PTA、子供会、環境団体、市内企業が参加してネットワークを築く。

「エコシティ志木」

環境市民大学講座、環境教育リーダー養成講座の卒業生（市内の環境市民団体のリーダー）がはじめ、現在も環境基本計画の策定や自然観察会など幅広い活動を実施している。

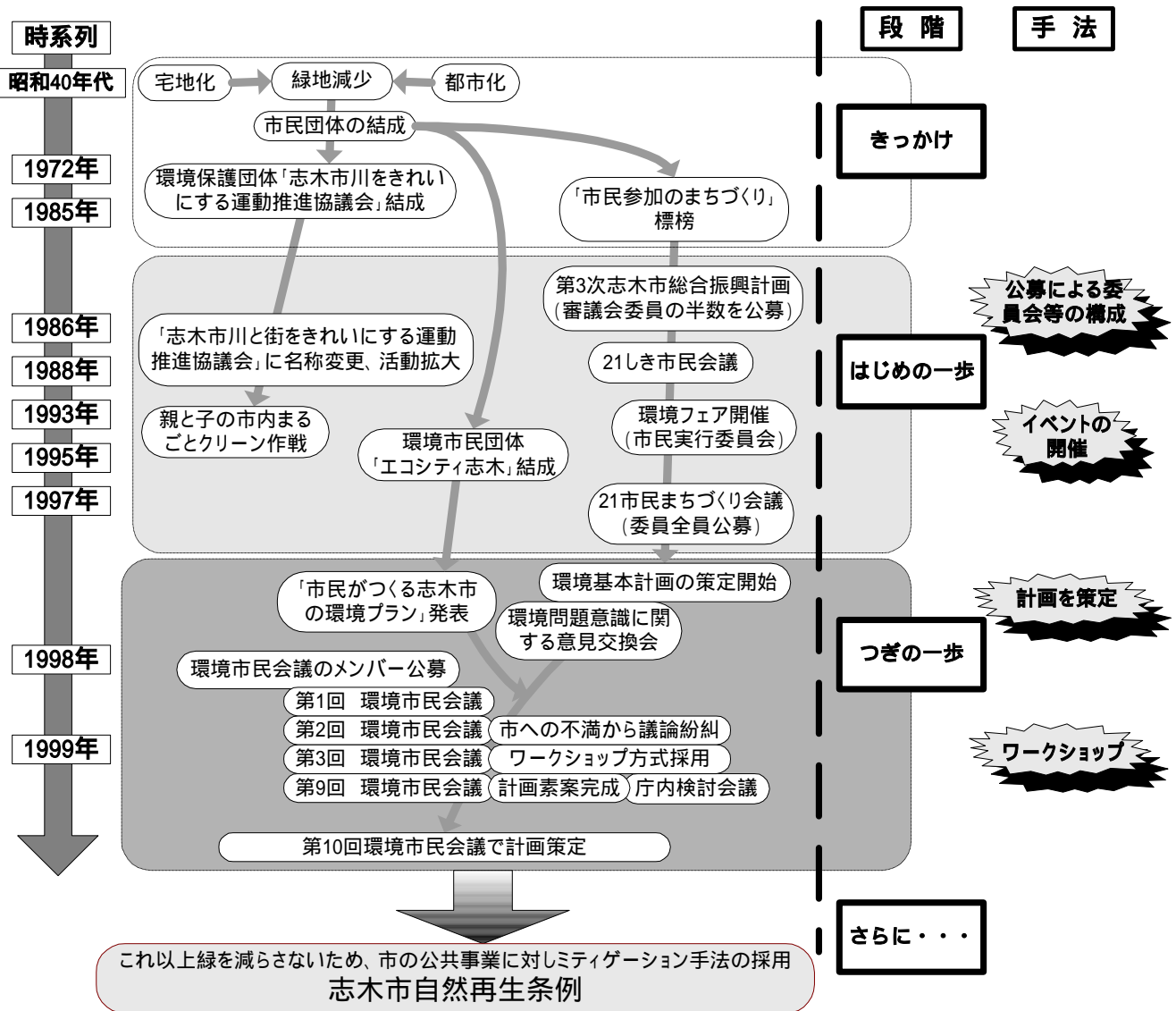
（<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/index.htm>）


「志木市環境基本計画」

第 1 章「基本的事項」、第 2 章「現況と課題」、第 3 章「計画の目標」、第 4 章「施策の展開」、第 5 章「各主体の役割」、第 6 章「計画の推進」からなり、本文 73 頁、資料編を入れて 94 頁。分かりやすい表現と読みやすいレイアウト。環境基本条例より先にこの計画を策定しており、条例は「必要に応じて個別に制定する」方法をとっている。

エコシティ志木の「市民がつくる志木市の環境プラン」の提案事項については、今後の取組課題として一部取り上げている。

活動の歩み



	テーマ	美観	事例・地域名	ヌップク川（北海道帯広市）
<p>概要</p>	<p>川の清掃活動をきっかけに活動が複合化</p> <p>旧水産庁さけます孵化場周辺のヌップク川は、北海道帯広市大正町にある住宅地に隣接していながらも豊かな自然が残っていた地域であった。1980年当時ゴミが不法投棄されていることによって、汚れていたのを住民運動から清掃し、環境改善が進んだ。さけます孵化場廃止が決定し、平成6年からさけます孵化場周辺の自然環境保全へと会の運動が変化した。</p> <p>さけます孵化場跡地は、運動によって帯広市自然環境保全地区に指定された。また、当該地域の環境保全に当たってはグラウンドワーク手法が採用され、この会を中心に河川改修が実行されている。</p> <div data-bbox="783 215 1481 712" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;">ヌップク川 (北海道帯広市)</p> </div>			
<p>経緯</p>	<p>1980年 ヌップク川に不法投棄のごみが多いことから個人（後の会長）による清掃活動が始まった。その後、賛同者が多くなり「ヌップク川をきれいにする会」結成に至り、川がきれいになったことにより会の活動が一時低調になった。</p> <p>1993年 さけます孵化場周辺にビレッジ・ヌップク・フォーク（分譲住宅地）が造成・分譲された。この分譲住宅は自然を売り物にしていたため、自然への関心の高い居住者が集まった。ヌップク川さけます孵化場内の堰は60年前に完成し、かもなどの集う自然環境となっていた。</p> <p>1994年 さけます孵化場の廃止と堰の廃止が決まり、分譲住宅の住民を中心に自然保護運動が起こった。この住宅地における堰を中心とした自然保護運動と上記ヌップク川をきれいにする会の活動が一つになり、ヌップク川をきれいにする会の自然保護活動への取組が始まった。</p> <p>さけます孵化場の敷地が水産庁から帯広市の所有に代わり、自然保護地区となった。その際に、自然保護地区を4地区（人の手を入れない地区、管理する地区等）に分け、下草刈りなどの自然保護地区維持を帯広市からこの会が委託を受けている。</p> <p>2001年 12月、河川改修にグラウンドワーク手法を取り入れ、住民・行政・企業が一体となり自然保護に留意した河川改修を行っている。</p> <p>研修等</p> <p>JICA(国際協力事業団)研修生受け入れ：毎年、帯広市にあるJICA（北海道国際センター（帯広））の地域流域環境コース（河川環境と住民活動がテーマ）の研修生を迎えている。</p> <p>大正小学校の「総合的な学習の時間」への協力；札内川に整備された「水辺の学校」の利用推進を図っている。大正小学校の総合学習で利用する場合に、会員がボランティアで講師を引き受けている。</p>			
<p>出典</p>	<p>現地取材</p> <p>ヌップク川をきれいにする会ホームページ（http://tech.obihiro.ac.jp/~nuppuku/siki.html）</p>			

現在の活動内容

1. グラウンドワーク事業

さけます孵化場跡地内の河川改修にグラウンドワーク手法を導入し、自然を極力残す手法で改修作業へ参画中。

2. 自然観察会

自然保護地区等を活用し自然の仕組みを解説する立場での解説とアイヌ民族研究者としての視点での説明を実施。

3. 夏の自然学校

ニジマスのつかみ取りやカヌー教室などを開催。

4. 円卓会議の開催

河川管理者である北海道建設部(または帯広土木現業所)、帯広市、地域住民等で開催。ヌップク川に関する話題を議論している。

5. 植樹活動

河川流量の減少が激しく、河畔へ植樹活動を実施。

活動の歩み

